

TEL 233 340 000
FAX 224 313 684
Email Jschool @volny. cz

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

学習発表会お疲れ様でした(児童生徒の感想と朝会の講話です！)

わたしはカーテンがひらいたときちょっときんちょうしました。タンバリンをうまくできてうれしかったです。もう1かいやりたかったです。あんまりきんちょうしませんでした。うたをちゃんとできてよかったです。みるしせいをたたくできてよかったです。あいさつはあんまりできなかったです。さいごの「12のつきが〜」のうたのポーズがちょっときんちょうしました。でもさいごまでできてよかったです。なつのようにせいをうまくできてよかったです。

(小1)

「わたしはひめとようせいやくをやって思ったことが、みんなで作った劇みたいだと思いました。なぜかという、みんながいいにくいところや、わからないことばがあったから、なんども台本をかえていったからです。さいごに歌った『世界中の子どもたちが』と『にじ』を大きな声で歌えてよかったです。

(小2)

「羽音さんといっしょにたくさん考えてきました。たくさんのお友達やお母さんからアドバイスをもらいました。初めは、ぼくたちだけの劇だと思っていましたが終わってぼくたちだけのげきじゃないと気づきました。とてもいいげきができてよかったです。みんながわらっているのを見て、げきはうまくいったんだなと思いました。みんなの笑顔が一番心に残っています。」

(小3)

「ぼくは、このあいの学習発表会で、少しくやしかったことがありました。それは、It's hard knock life のときほうきが見つからず、そのあとから、ほうきをさがしながらやってしまったことです。そのあと、家にかえってから学習発表会のはん省会をしました。その時僕は、ああぜったいだめだこれあとと思っていました。どうしてかという、あつくん(弟)は、点数が二百点だったし、すこしさがしながらやってしまったからです。でもお父さんがいったのは、『二百五十点だよ』と言う言葉です。ぼくはなぜかわからなくてキョトンとしていると、お父さんは『気持ちを変えられたのがよかった』と言ってくれました。そして、いっぱいほめてくれたので、うれしかったです。」

(小4)

「ぼくは、学習発表会を終えて思ったことがひとつあります。それは思いの伝え方のちがいです。たとえば、5年と6年のちがいは、5年は言葉だけで演技をなるべく少なくして伝えます。一方、6年は言葉にあった演技をして伝えます。ぼくは、こういうちがいができるのは、考え方がちがうからだと思います。5年は言葉だけでやった方が集中できると考えました。しかし、6年は演技があった方が面白いと考えました。だけど、学習発表会の劇はちがうから個人差がでて、面白いんだと思いました。」

(小5)

『もっと熱くなれよ!!』この言葉がぼくに学習発表会へのやる気や情熱を与えてくれたんだと思う。もしこの言葉がなかったらぼくはずっといやな感じで劇を行っていたと思います。ぼくが今回の劇で一番がんばった部分は、レンジャー(戦隊ヒーロー)のところでした。家に帰ってからお母さんに『がんばったね。おもしろかったよ。』と言われてとてもうれしかったです。今回の劇は僕が今までにやってきたものの中で一番楽しくて熱くなれたものだと思います。」

(小6)



「太鼓が一番初めの伝統行事なので、自分は勝手にビクビクしていた。その時のことはよく覚えていないが、とても緊張していたのは覚えている。そして、自分の掛け声の部分がだんだんせまってくると、やる気がいつも以上に入り、力が抜けていった。力の入れ方がうまくいったのか、いつもより声が出た。自分は力が抜けた状態で声を出せたことがよかったんじゃないかと思う。また、これからの学校生活で、必ずそういう場面があるかもしれない。その時には、しっかりとその役割を果たせるようにしたい！」
(中1)

「私は今年の学習発表会で、『太鼓のリーダー』という大きな役割をまかせられました。正直、最初はみんなに何とアドバイスすればいいのかよくわからなかったし、練習も何をすればいいのかさっぱりでした。でも、わたしに助言してくれた中2のみんなのおかげか、どういう風に指示を出したらいいのか、リーダーとしてどんな行動をすべきかがだんだんとわかるようになってきました。私が、ここでできる最後の学習発表会で、はじめて『責任感』を感じる事ができたのは、私を支えてくれた中学部の人たちや先生方のおかげです。」
(中2)

「インター校では他人と協力して行動したりすることは少ないので、劇の練習、合唱など、とても新鮮に感じた。とくに印象に残っているのは、皆で意見を出し合い妥協しながら劇を作り上げる姿だ。今回の学習発表会では、いかに他人と協力したらいか学べたと思う。とても貴重な時間を過ごすことができた。」
(中3)

学習発表会お疲れ様でした。皆さんの歌や演技、踊りそして生き生きとした表情に観客の誰もが心から楽しむことができました。お客さまからも、皆さんのステージ発表だけでなく、司会者、さらに司会のチェコ語、児童生徒会長さん、副会長さんのあいさつ、そしてステージマナーなど、たくさんのお褒めの言葉をもらいました。みんなも長い準備と練習を重ねての本番ですから、学習発表会がやっと終わったと感じていると思います。でも、行事の最後にいつも言っていることがあります。それは、「学習発表会は終わってないよ」ということです。みんなの学習発表会のテーマ「つくろう、つなごう、つたえよう」というトリプルTは、学習発表会を成功させるための目標でしたが、学習発表会が終わってもそこで身につけた力は引き続き発揮してほしいのです。「みんなで何かをつくる」は、ふだんの生活では「毎日の授業で勉強がわかる、できるようになる」ということです。そのためには、クラスの中でみんながつながり、つたえあうことです。わかっている人やできるようになった人が、困っている人を助けてください。実は、人に上手に教えることは難しく、だれかに教えると、教えた人はさらに深く理解できるのです。すると、学校で一番勉強ができるのはだれでしょう？そうです、実は先生たちは毎日教えていますから、いよいよ勉強がわかるようになります。みんなもわからないところがあれば、遠慮せずにお友だちに質問してください。そのときに、教える人は「教えてあげる」という気持ちではいけません。教えることでさらに深く勉強がわかるようになるわけですから、「教えさせてくれてありがとう」って気持ちで教えてください。これなら、質問するほうも気がねなく聞けますね。だって、だれかのわからないところを、わかるように説明することで、教える人はさらにわかるようになるわけですから。こんなクラスのようにすが、「つなごう」「つたえよう」だと思います。これが、学習発表会は終わったけれど、終わっていない理由です。行事でつけた力を、ふだんの生活の中で生かしてこそ、行事も意味があります。これが「学びあい」でもあります。

(朝会講話・校長より)